

祈りの絆

連盟の被災地支援に関する情報は、連盟ホームページをご覧ください。<http://www.bapren.jp/>

お祈りください

1. 今なお避難を続けておられる方々の生活が守られ心身ともに守られますように。
2. 燃料棒取り出しと、汚染水処理が滞らすに行われますように。

現地の昨今

2014年3月11日、郡山コスモス通りキリスト教会では、11年8月より毎月、お伺いさせていただいている緑が丘東7丁目仮設団地でお茶会をさせていただきました(写真右)。この仮設団地は福島第一原発から半径5~10キロ圏内の富岡町から避難されている方々110世帯約180人が生活しておられます。



3月11日緑が丘仮設団地お茶会にて

いつもお茶会に来てくださっていた方が、お伺いする数日前に孤独死をされたとのこと。住民の方々は気づいてあげられなかったことに対する罪責感、あるいは、自分もそうなるのではないかという言い知れぬ不安、3年たってもまだなにも解決していないばかりか、いつ自分の家に帰れるのか、これからどうなるのか、何のめどもたたない状況に心身ともに疲れ果て、やり場のない怒りがこみ上げてくることを話してくださいました。

14時46分、皆さんと一緒に黙祷をし、短くお奨めをさせていただきました。涙がこぼれて言葉を繋げるのに困ったひと時でした。夜は教会で震災を覚える集会を行いました。今回は女性連合あいあいプロジェクト担当の蛭川潤子さんと目白ヶ丘教会よりワーキングチームから4名の方々が朝の準備から参加してくださいました。改めて3年にわたる仮設支援の働きが教会の働きではなく、主にある全国の皆さんのお祈りと献げ物、応援によって支えられていることを確認する恵みの時となりました。



コーペラティブ バプテスト フェロ-シップ
Cooperative Baptist Fellowship(CBF)による視察

CBFからはこれまで多額の被災地支援募金をいただきました。このたび、3月20~21日にかけてお二人の方々が今後の募金の必要性を確認するため、郡山市、大槌町を視察してくださいました。20日から21日かけて25年ぶりの大雪が遠野、釜石、大槌に降り積もり、深い所では膝まで雪に埋もれるような状況でした。そのような悪天候の中でしたが、小銃第4仮設ではいつものようにお昼ご飯を作って私たちが待っててくださいました。いつも食事を用意してくださるNさんが、「今年の3月11日は辛かった。涙がこぼれて仕方がなかった。今までで一番辛かった」と涙を浮かべて話してくださいました。いつも笑顔で、みんなを笑わせ、支えてこられたNさんのこの言葉に私たちは現場の今を見たように思います。復興の見えない状況の中、辛抱に辛抱を重ねてきた3年。気持ちが張り詰め続けてきた3年。「今度、いつ来てくれるのか?待ってるべ…」帰路につくため、車に乗り込もうとしたら寒い中、談話室の窓を開けて、私たちの車が見えなくなるまで手を振って見送ってくださいました。聞かされた方々の思いが「マケドニアの叫び」に聞こえました。「主よ。この支援を続けさせてください。私たち連盟をお用いください」。ハンドルの握りながら祈りと涙が溢れて仕方がありませんでした。今からの支援が大切なことを教えていただき身の引き締まる思いがしたひと時でした。



CBFエディさん

東日本大震災被災地支援委員会原発課題班コラム⑩ 「大地に仕える人」

—2013年10月28日神学部チャペル・メッセージより抄録(上)—

西南学院大学神学部教授
須藤伊知郎

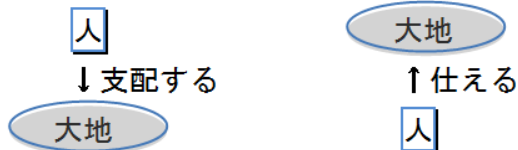
このところ、福島第一原子力発電所の汚染水のニュースを耳にしない日はない。安倍首相は2020年オリンピックの東京開催を決めたIOC総会で、「状況はコントロールされています」と公言したが、実際にはまったくコントロールできておらず、汚染水が地下水、そして海に流れ続けている状況である。これはチェルノブイリと並んで、史上最悪の環境汚染、自然破壊である。我々はキリスト者として、この問題をどのように捉えたらよいのだろうか。

1967年、リン・ホワイト・Jr.が『サイエンス』誌に「現在の生態学的危機の歴史的根源」と題する論文を発表し、環境破壊をもたらしている科学技術文明の根底にはキリスト教の伝統的な自然理解と人間中心主義があると指摘した。彼によれば、現在の生態学的危機から救い出してくれるのは、科学や技術の更なる発展ではない。我々は「自然は人間に仕える以外になんらの存在理由もないというキリスト教の公理」を斥け、「自分の本性とその運命を考え直し、感じ直さなければならない」のだという¹。このホワイトの問題提起はキリスト教神学に対して深刻な問いを投げかけた。しかし彼はヨーロッパ中世農業技術史の専門家であり、聖書の解釈に関しては一面的で短絡的な理解にとどまっている点もあるため、そのテーゼは批判的に再検討する必要がある。

ホワイトが典拠として挙げている創世記1章28節はたしかに、人が大地の上に立って、これを支配する、という思想を語っている。しかし2章5節と15節では、人は大地に「仕え²、これを守る」者である、と宣言されている。

1,26-28

2,4b-7.15



創世記1,26-28は、背景に古代メソポタミアの、王のみが神のかたちで、特別な存在であり、他のすべてを支配するのだ、という帝国主義的イデオロギイがあり、これを、すべての人が神のかたちであるという「民主化」する宣言であるが、人が神のかたちとして大地を支配するのだという抜き難い人間中心主義を引きずっている。それに対して2,4b-7.15は、人(アーダム)は大地(アダマー)から創られ、大地に仕えるものであると語り、人と大地が共に被造物として神に向き合うものと捉えている。聖書にはこれら二つの相反するメッセージが響いているのである³。どちらを選び取るかが、今我々に問われている。

¹ リン・ホワイト著、青木靖三訳『機械と神——生態学的危機の歴史的根源』みすず書房、1972年、95頁。

² 創2,1.15のアーバドは普通「耕す」と訳されているが、このヘブライ語動詞の基本的な意味は「仕える、働く」であり、ここでもその意味である可能性が高い。月本昭男『『原初史』にみる人間と自然』旧約聖書翻訳委員会編『聖書を読む—旧約篇』岩波書店、2005年、1-25頁所収、7-9頁参照。

³ 荒井献「神と人間と自然」同『聖書のなかの差別と共生』岩波書店、1999年、121-146頁所収、128-129頁参照。荒井はヘブライ語聖書の中に、〈神・人間〉対〈自然〉のAタイプと〈神〉対〈人間・自然〉のBタイプを見ている。

2013年度募金目標額(一般募金): 2,000万円

〈2013年4月1日から3月21日現在〉

1,511万円(国外からの226万円を含む) **目標に対する不足額489万円**

※上記一般募金その他、指定募金(原発課題等)として325万円が寄せられました。

2014年度も引き続き被災地支援を覚え募金にご協力ください。

<振替>00140-9-180881 宗教法人日本バプテスト連盟総務部